

USER MANUAL JAPANESE

:01 WING



CABRINHA 

A WARNING

安全のために必要な以下の内容に同意できない場合、この商品の使用を禁じます。また以下の内容は不定期に変更されることがあります。最新の情報をアップデートするために、絶えずカブリナ・カイトサーフィンのホームページ WWW.CABRINHAKITES.COMをご覧ください。

使用者が18歳以下の場合、両親または保護者に以下の警告やインストラクションに関する項目とユーザーマニュアルを読んでもらう必要があります。レッスンを受け、インストラクターかマニュアルを読んだ者の監督下でしかこの製品を使用できません。

この製品にはその使用に伴い、予期せぬ危険が起こる可能性があります。カブリナおよび販売店は、当製品以外の資産の損失や他資産の消費に生じた損失、あるいはその他の経済的損失を含め、しかしそれに限定されず、いかなる特別的、間接的、付随的、結果的、法的もしくは模範的損害に関して、契約行為であったか、不法行為や過失があったか、厳正な賠償責任であったかを問わず、一切責任を負わないものとします。

ウイングサーフィンは激しいスポーツです。ウイングは、使用者自身や回りの人々に危険を及ぼす可能性があります。ウイングを行う際は真剣に、慎重に取り組み、経験が浅いライダーはプロのインストラクターや経験豊富なウイングサーファーのレクチャーを受けることをお勧めします。ウイングの使用方法が正しくない場合は、ライダー自身や周りの人々に深刻な怪我を負わず、または最悪の場合には死に至らしめる可能性があります。電線や空港、建物、道路、樹木やブイの近くなど障害物がある場所、ブレイクしている波ではウイングを使用しないでください。ウイングサーフィンを行って良い場所で行うようにしてください。ウイングは常に見通しの良い場所でご使用ください。風や天候に留意し、特に、オフショアやオンショア、強風時、海面の状況には注意が必要です。ウイング操作ができるようになるまで、陸上で練習してください。ウイングを使用する際の安全面の責任は、すべてライダー自身にあるということを絶えず頭に入れておいてください。このスポーツを練習する際には、自己の限界を留意し、無理をしないようご注意ください。海上でウイングを使用する際には、安全上、必ず保護防具や浮力体を身につけ、ウイングとライダー自身をほどけないほどしっかりと繋がないようにしてください。ウイングを飛行目的、浮力体として使用しないでください。

A WARNING

お勧めのウイングサーフィン練習方法:

ウイングサーフィンはいろいろなスタイルやレベルに応じて楽しめる多様なスポーツです。しかし、他のスポーツと同様に先天的な回避しがたいリスクも伴います。カブリナウイングを使用する前に、下記の安全上のキーポイントを覚えておきましょう。

- ウイングサーフィンは危険を伴うスポーツで、ウイングの使用者は人体のあらゆる箇所に深刻な怪我をする怖れがあることを理解してください。
- ウイングサーフィンをやる際に怪我をする危険性は非常に高く、ウイングサーフィンを始めようとする使用者はそれを理解しなければなりません。
- 未成年は必ず監督者のもとでこの製品を使用してください。
- 初心者はまずレッスンを受けることを強くおすすめします。
- 使用する前には常にキャノピー、ブラダグ、その他全般に、擦れや引き裂けの兆しがないかどうかチェックしてください。
- 擦れや引き裂けの兆しが見られた場合、使用前にただちにリペアやパーツ交換を行ってください。擦れや引き裂けに関する質問がある場合は、地元販売店にお問い合わせいただくか、ホームページ www.cabrinhakites.com をご覧ください。
- ライダー自身や他の人が怪我をする可能性がある状態やウイングのいかなるパーツを破損する可能性がある状態を絶対に避けてください。安全に自力で岸に帰って来られる状態を保ってください。
- 正規販売店で購入した正規製造パーツを使用してください。
- 海の状況やカレント、天気予報など、コンディションに関して勉強し、そういった情報を出艇する前に必ず確認してください。オフショアやオンショア、強風でセーリングする際には注意が必要です。
- 初めてのポイントに行った場合、出艇する前にまずはそのポイントに慣れることを心掛けてください。危険なものがないかどうか、地元のライダーに訊ねましょう。
- 遊泳者や小さな子供など、他のビーチ使用者に注意してください。ボードとウイングを常にコントロールできる状態に保ち、ビーチや海上で風に吹かれて飛ばされないようにしてください。
- 常に十分な浮力体をつけてください。ウェットスーツやUV効果のあるトップスなど、適正なスーツを身に付けて出艇してください。ヘルメットの着用を強くおすすめします。
- 絶えず出艇あるいはビーチに戻ってくるタイミングを他の人に知らせてから行動しましょう。セーリングパートナーをみつけ一緒にビーチにいきましょう。
- コンディションの変化(風が落ちる、風や波が上がるなど)に注意し、変化の兆しが見えたときには、常にビーチに戻ってください。
- ビギナーのうちは自己の限界を超えるコンディションでウイングサーフィンしないでください。
- この製品は改造や変更をしないでください。
- この製品は海上または雪上、陸地でウイングすることだけを目的としてデザイン、製造されています。
- このマニュアルにはカブリナウイングを陸上、水上、雪上で扱ううえで大切な安全面を明記しています。

A WARNING

雪上で使用する際の注意

- ウィングサーフィンの練習方法で留意しなければならない点は雪上での使用も含まれます。雪上でウィングを使用することがあるライダーは以下を熟読する必要があります。
- このウィングは雪上でのアトラクション製品として、完全にコントロールされ、しかるべきマナーのもとで広い雪の積もった広場で使用されなければなりません。
- このウィングを飛行目的で使用しないでください。峰や崖、斜面から上昇する目的でこのウィングを使用しないでください。
- ライダーがランディングする際に衝撃を受けるような、いかなるエアも行わないでください。
- 平坦でない地形やアイスバーン・コンディションなど、あらゆる山岳地で使用する際には十分な注意をはらう必要があります。山岳地の風は非常に不安定で、不意に風向きや強さが変わることがあります。
- この製品を杭などの障害物がある場所で使用しないでください。こういった障害物との接触は深刻な事故に繋がる恐れがあります。
- 常に保護用のギアを身につけて使用してください。特にスノーボード専用のヘルメットの装着を強くおすすめします。
- ウィングの飛行中は車やスノーモービルなど、それが動いているか否かに関わらず、動く物とライダーを接続しないでください。
- 常にウィングを充分にコントロールでき、人や障害物を避けたり止まれるように保つ必要があります。
- 風下や下り坂にいるライダーには権利があります。自己の責任において他の人を回避してください。
- 傾斜の下にいる人に優先権があります。ルールに従い回避することはライダーの義務です。
- 動き始める前には風上や斜面上、回りに人がいないことを確認してください。
- 常に流れ止めを使用してください。流れ止めを外す必要がある場合は、ランディングを雪につきさすようにしてスノーボードを山側に置き、ボードが滑らないようにします。
- すべての看板等、掲示物を確認してください。
- 禁止区域で使用しないでください。
- スノーボードと合わせてウィングを使用する前には、スノーボードに乗るための知識と安全に着脱できる能力が必要です。
- アルコールや薬の影響がある状況、または体調が優れない場合はスノーボードやスノーウイングしないでください。
- 雪山やスノーボード/スノーウイングのコンディションは絶えず変化します。人造物や樹木、岩、破片、斜面、雪崩地域、クレパス、崖、電線、リフトのライエ、ウォーターハザード、太陽が照りつけることによって起る雪面の变化、風や天候の変化など、スノーボード/スノーウイングのコントロールに影響を与えるすべての事項に十分に注意してください。

CABRINHA

- 2 イントロダクション
- 3 重要な情報
- 4 風、海面、天候
- 5 自己のレベルの認識/ウイングのロケーション
- 6 ウイングのケア
- 7 ビーチでのエチケット
- 8 スプリント・インフレーションシステム
- 9 ウイングへの空気の挿入
- 10 空気圧の表
- 11 セッティング
- 12 リペア ひきさけ/バテン・ブラダー
- 14 リペア リーディングエッジ・ブラダー
- 16 用語集

イントロダクション



新しいカブリナ・カイトのご購入ありがとうございます。そしてウイングサーフィンの世界へようこそ。ご存知のとおりウイングサーフィンの楽しさは世界中のあらゆる年齢の人々を魅了しています。

注意!

ウイングサーフィンもしっかりとその特徴を理解し、節度をもって行われなければならないスポーツでもあります。そのためにカブリナではこのユーザー・マニュアルを配付しています。これは新しいウイングを購入されたライダーの方がウイングに対する知識を広め、安全に使用するために必要なものです。さらにセッティングやメンテナンスなど、知識を深め、ウイングを水上で楽しく、長い間使っていただくためのインフォメーションも多く記載してあります。カブリナのウイングを長く楽しんで使っていただくため、パーツは専用の物を使いましょう。

実際にウイングをご使用になる前に、このユーザー・マニュアルのすべてのページを熟読してください。このマニュアルはウイングのインストラクションを目的につくられたというより、補足的な説明をしているものですが、ライダー自身および回りの人の安全のためにも必要な事柄が記載されています。

重要な情報

ウイングサーフィンはいろいろなスタイルで、レベルに応じて楽しめる多様なスポーツです。しかし他のスポーツと同じように怪我をするリスクを伴っています。これからカブリナのウイングを使用する際に覚えておくと良いキーポイントを紹介していきます。

- ウイングとハンドリーシュの使い方に慣れ、正しいセッティングを行ってください。
- 必要な時に適切にウイングとライダーを離せるようセッティングしてください。
- ウイングを飛行目的で使用しないでください。
- 空気の入った状態で使用していないウイングは、必ず砂や何か重い尖っていない物を置いて安全を確保してください。充分と思われる以上に重たい物を置くことをお勧めします。(ウイングの取扱い、情報の項参照)
- 空気の入ったウイングに対する十分な訓練をしていない人に、ギアを貸さないでください。使用者は必ずこのユーザーマニュアルを熟読し、すべての項目に同意する必要があります。
- きちんとセッティングされていること、きちんと作動することといった項目を、海上に出る前に必ずチェックしてください。

安全のためのギア

以下の保護用ギアの使用を強くお勧めします：

- ウォータースポーツ専用ヘルメット
- ライフジャケット、インパクトベストなどの浮力体
- ネオプレン製ウエットスーツ
- グローブ
- ブーツなど足を保護するもの
- 目を保護するもの
- 安全用ナイフ
- 日焼け止め

重要な情報

風と海面、天候について

- 風のパワーを過小評価しないでください。
- 不意の天候の変化に気を付けてください。
- オフショアやオンショアのコンディションを避けましょう。
- 強風やガスティな風を避けましょう。
- 特にビギナーのうちには波のあるコンディションでは注意が必要です。
- 潮の満干やカレントを調べましょう。
- 自己のレベルを認知しましょう。自己の限界を超えるコンディションではウイングサーフィンをしないでください。
- 外気温や水温について前情報を得て適切なスーツを身に着け、自然要素から身を守りましょう。
- 嵐のなかでこの製品を使用しないでください。
- 必要に応じて風速計を用いたり、気象情報センターを利用し、コンディションを把握しましょう。
- オーバーサイズになるウイングを使用するのはやめましょう。風の早分り表を使い、最適なサイズのウイングを選びましょう。常識の範囲内で無理をせず、サイズの決定に不安が残るときには小さいサイズを選びましょう。

突然風が上がるなど、コンディションの変化によってリストリーシュのプルタブを引き上げウイングをリリースこともあります。体重による安全システムの作動状況については、専門店である最寄りのカブリナ正規販売店にお問い合わせください。

重要な情報

ライダーのレベルの認知

- きちんとしたインストラクションなしでウイングサーフィンしないでください。
- 一人でのライディングは禁止です。
- パートナーと行うか、ビーチで絶えず観察してくれる人が必要です。
- この製品を使用する前に良好な健康状態である必要があります。
- この製品を水上または水際で使うためには上手に泳げなければなりません。
- 自己レベルには風と海面のコンディションと大きな関係があるということを理解してください。コンディションに合わせて正しい道具のチョイスをしましょう。
- 泳いで帰れないほど沖ではウイングサーフィンしないでください。
- 絶えず体力の温存をはかってください。疲れ切る前にウイングサーフィンのセッションを終了してください。
- 安全上の責任は全てライダーにあります。

ウイングサーフィンに適した場所

- 地域の法律や決まり、規則に従い、使用可能な場所でこの製品を使いましょう。
- 天候やローカルルールについて、地元のライダーの話を聞きましょう。
- 始める前に必ず周囲をチェックしてください。
- 特にランチングする場所では風向きに絶えず注意する必要があります。
- 浅いリーフや飛び出しているリーフ、岩のある場所で行わないでください。
- 人の多いビーチや波打ち際には使用しないでください。
- ウインドサーフィンやジェットスキーなどの他のマリンスポーツを行っている人、海水浴を行っている人、浮遊物に対して十分に注意してください。

重要な情報

ウイングのケア

エクストリーム性の高い性質を持つウイングでは、ウイングの運搬やセッティングの際にも安全ギアと同様にすべてのギアをしっかりと扱わなければなりません。

セッションの準備

- 安全のための道具（ヘルメットなど）が壊れていないか、通常の動きをするか確認しましょう。
- ウイングをこまめにチェックし、空気もれや引き裂け、キャンピーやパテンの擦れ、安全システムの異常をいち早く発見するようにしましょう。
- アスファルトやセメント、砂利など、摩擦の大きい所でセッティングするのは止めてください。道具を痛める恐れが多分にあります。砂や芝生の上でセッティングするのが理想です。摩擦の大きい所でセッティングした際に生じたダメージは保証範囲外となります。
- キャンピーを破いたり、パテンやリーディングエッジの空気もれを起こすような、尖ったもののある所でセッティングしないでください。
- セッティング中は砂や砂袋でウイングを安全に保管してください。カイトを傷つけるような尖ったものや岩、摩擦を起こすようなものからウイングを遠ざけてください。

セッションの途中で

- 長時間、空気を挿入したウイングを人の手から離れた状態でビーチに放置しないでください。風がシフトしたり風向きが変わることによって、カイトの安全性が保たれなくなり飛んでいってしまう恐れがあります。
- 空気を挿入した状態のウイングを（重りを乗せていても）長時間ビーチで風に吹かれた状態にしないでください。こういった状態では、トレーリング

エッジが絶えず風に吹かれた状態となり、ウイングの素材を痛め、ウイングの寿命を短くします。もし長時間ビーチにウイングを置かなければならないときは、パテンやトレーリングエッジなど、ウイングの広範囲に砂を乗せパタつきを最小限にとどめた状態にしてください。また岩など尖ったものを重しに使わないでください。

正しい収納方法

- ウイングを丸めたり折り曲げるときは、必ずよく乾燥させてください。濡れた状態での折り曲げや丸めは、ウイング劣化の原因となります。
- 収納前には異物や砂を取り除き、ウイング全体を真水で濯ぎきれいな状態にしてください。
- ウイングがきれいな状態で乾いたら、購入時に入っていたバッグに入れ、乾いた涼しい所に保管してください。
- ウイングが入ったバッグの上に重たいものを置かないでください。
- 空気を挿入したウイングを車の中や車上の収納ボックスに入れたままにしないでください。気温の変化によってウイングが破裂する恐れがあり、これによって内蔵ブラダーは深刻なダメージを受けます。

重要な情報

ビーチエチケット

ビーチや海面を他のユーザーと共有するために考えられる基本的なエチケットです

安全

- このマニュアルやその他製品についてくるすべてのマニュアルを熟読しましょう。
- 使用ビーチに掲げられている安全やルールに関する看板や掲示物をよく読み、それに従いましょう。
- 新しいポイントでランチングする前に地元の協会やショップに行きましょう。看板や掲示物にない地元のルールや規則がある可能性があります。
- 一般的な安全認識に従いましょう。
- ウイングなど、他の人の道具に許可なく触ったり、チューニングをしたりしないようにしましょう。
- 常にウイングは砂や砂袋を使って安全を保ってください。ライダーが操作していないウイングは危険です。
- 空気を入れた状態のウイングをライダーから離れた所に置かないでください。風向きが変わりウイングが不用意に飛んでしまう危険を避けるためです。

セッティング

- 使う道具だけをセッティングしましょう。使用していないウイングは空気を抜いて、ただちに片付けましょう。
- 十分なスペースがあるところでセッティングしましょう。
- 他のビーチユーザーのことを十分に配慮し、セッティングしましょう。
- ランチングやランディング、ライディング時には絶えず他のビーチユーザー、海面にいる人のことを配慮しましょう。
- 他のビーチユーザーに譲る心を持ちましょう。
- 常に必要に応じて他のウォータースポーツライダーの助けをかりられるようにしておきましょう。他のウォータースポーツライダーと互いに助け合いましょう。

セッティング

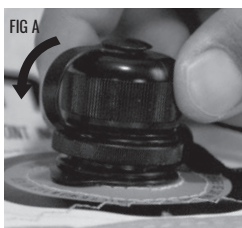
スプリント・インフレーション・システム

スプリント・インフレーション・システムは、ウイングに均等に空気を挿入できる使いやすさが特徴のシステムです。このスプリントシステムとはハイボリュームポンプであるカブリナポンプを使い2種類の方法でただちに空気を挿入できます。ポンプ・リーシュとスレット・バルブ・コネクションをつなぎ、風があるなかでもウイングは安定した状態で空気を挿入できます。

ウイングに十分な空気が入った状態から、クリップを使ってストラッド内の空気を一部取り出すこともできます。これによって、使用中1本のバテンがダメージを受けても、他のストラッドの空気が抜けることもありません。セッションが終わったらウイングの空気を完全に抜き、クリップのエンゲージを解除します。

またバテンに空気を挿入したままウイングを丸めて置くこともできるので、次のセッションの時、数分でセッティングすることもできます。

エアロック空気挿入/排出バルブ



アイテム上部が
挿入キャップ



アイテム下部が
排出キャップ



セッティング

基本的な空気挿入に関する手順

ウイングに空気を挿入する前にウイングのケアの項を参照ください。

- バテンが上を向く方向でカイトを広げます。
- 背中を風上に向け、ウイングのリーディングエッジを身体の近くに保持します。空気をいれていない場合でもウイングチップに砂を乗せるなど、安全に気を配ってください。
- 付属のポンプ・リーシュを用いてウイングとポンプを接続します。これによってカイトを押さえる必要がないので、両手が自由に使えます。
- 反時計回りに回してインフレーション・キャップを開きます。
- 時計回りに回すことにより、リリースバルブが固く閉められていることを確認します。ウイングに空気が入っていない場合、リリースバルブを強く閉めすぎないように注意してください。激しくねじることによってブラダーにダメージを与える恐れがあります。バルブのベース部分はベルク口製ディスクによって所定の位置にあります。
- ウイング付属のエアーロックバルブに直にポンプの先をあてがいます。この操作に接続パーツは必要ありません。
- 空気を入れる時は、両手でポンプのハンドルを持ち、ポンプに均等に力がかかるようにします。これを行うことによってポンプの寿命が延びます。
- ウイングが十分に膨らんだら、ポンプ・ホースを外してインフレーション・キャップをひねって閉めます。軽く回すとインフレーション・キャップはしっかりと閉まります。
- 下部のリリースバルブを閉めます。
- ウイングには適量の空気を挿入してください。きちんと膨らんだウイングの端は強く曲げれば曲がる程度の固さになります。ウイングチップが簡単に曲がる場合は、リーディングエッジの空気が不足しています。ウイングが十分に膨らんでいる場合、ウイングを裏表に置くとウイングチップが上空に向かって伸び、ウイングが弓状の形を保ちます。リーディングエッジに空気が不足している場合、パフォーマンスの低下やリランチ時に問題が生じる可能性があります。注意: ポンプは1プッシュ毎の空気量が決まっていますが、摩耗や亀裂によってその表示が正しくないことがあります。
- ウイングにきちんと空気が挿入されたら、ウイングを裏返しにして砂などを上に乗せ、安全に置きます。

SETUP

クロスウイング 空気挿入量

	リーディングエッジ PSI	ストラッド PSI
Wing 3m	7.5	12
Wing 4m	7	12
Wing 5m	6.5	11
Wing 6m	6	11
Wing 7m	5.5	10

マンティス 空気挿入量

	リーディングエッジ PSI	ストラッド PSI
Wing 2m	9	N/A
Wing 2.5m	8.5	N/A
Wing 3.1m	8	N/A
Wing 4m	7.5	N/A
Wing 5m	7	N/A
Wing 6.2m	6.5	N/A

注意

この表は参考として掲載しています。
気温、ゲージの正確性や他の要因によって最終的なウイングの空気量は異なります。空気の入れすぎはウイングの寿命を短くすることにつながります。

セッティング

ウイングを安全に保つコツ

- 空気を挿入したウイングをライダーのいない状態で長い時間、ビーチに置かないでください。風向きがシフトする可能性があり、ウイングが飛ぶなど、安全でない状態になります。
- 砂を乗せるなど、必要だと感じる以上に重いものを乗せてください。人が操っていないウイングは危険です。
- 岩や尖ったもの(ボードを含む)をカイトの重りに使わないでください。これはウイングの寿命を縮める行為です。砂浜でウイングしない場合、砂袋の用意をお勧めします。
- 風が吹いているなかで、ウイング(重りをしていてもいなくても)を置き去りにしないでください。これによってウイングのトレーリングエッジが風によってパタつき、ウイング本体のダメージを引き起こします。風の吹くビーチにウイングを置いておく場合、パテンの間全部やトレーリングエッジの近くに多くの砂を乗せ、パタつきを最小限に抑えてください。また日陰においてください。
- 他のビーチユーザーのことを絶えず考え、ウイングを他の人に対して危険がない状態に保ってください。

ウイングから空気を抜く方法

ウイングは完全に、または便宜上部分的に空気を抜くこともできます。リーディングエッジだけの空気を抜くには、ストラッドを独立させるためにスプリント・エア・クリップが閉じていることを確認してください。その後インフレーションキャップではなくリリースバルブを回して緩めます。リリースバルブはエアロックの下部(図A)にあります。空気を抜いた後、ウイングチップから徐々に中央部分までカイトを巻き上げます。バルブについての砂や汚れを取ります。収納前にバルブを閉め、内蔵ブラダーにゴミが入るのを防ぎます。

ストラッドから空気を抜くには、ストラッドにあるエア・クリップを外します。次にリリースバルブを開きます。これによってパテンからリーディングエッジに流れた空気はエアロックから外に出ます。

空気を抜く場合にはキャップを取り外しリリースバルブを開きます。



FIG A

注意事項:

空気を抜いたカイトのバルブを閉める際、ブラダーのねじれを防ぐためにブラダーを定位置に固定してください。ウイングに空気が入っていないときにバルブを閉めすぎないでください。ウイングに空気を挿入した後は硬く閉めることができます。

リペア

大きな引き裂け

ウイングのファブリックに大きな引き裂けができた場合、販売店にウイングのリペアをしてくれるロフトを紹介してもらいましょう。お近くのカブリナ販売店は以下のサイトで検索できます：<http://www.cabrinhakites.com/dealers.html>

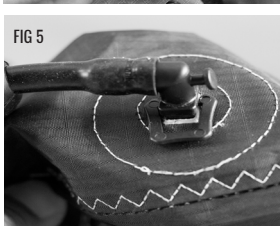
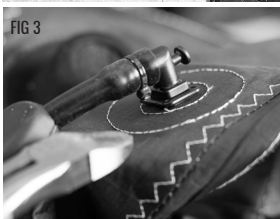
小さい引き裂け

ウイング・ファブリックの小さい引き裂けはバッグに入っているリペア・テープで修復可能です。

1. ウイングをきれいにし完全に乾かします。
2. ウイングを平らで凹凸のないきれいな所に広げます。
3. 引き裂けが完全に隠れる程度の大きさにリペアテープを2枚切ります。
4. ウイングリペアテープの1つで引き裂けの片面を注意しながら完全に被います。ウイングの表面にテープをこすりつけて密着させましょう。
5. 引き裂けの逆の面にもうひとつのリペアテープを張り付け、同じように密着させます。
6. 両面のテープがしっかりと接着されていることを確認します。

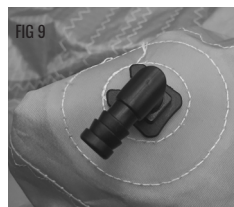
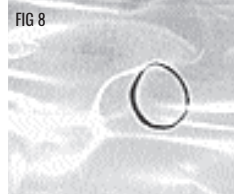
引き裂け/パテンブラダー 覚えておきたいポイント

- ストラッドのブラダーをリペアする前に、ウイングがきれいな状態で完全に乾いていることを確認します。常にポンプとブラダーには砂がついていない状態を保ち、完全に乾かして汚れを拭き取ります。
 - ストラッドに空気が入っていないことを確認します。
 - ピーチや汚れた場所、埃の多い場所、風が吹いている場所でのリペアは避けてください。床など、下がスベスベした所が理想的です。
 - ブラダーをリペアする前にフライイングラインのセットとブラダー・リペア・キット(ウイングに付属)を用意します。
 - 後から使いやすいようにすべてのパーツを分かりやすく並べておいてください。
1. まずパテンを上に向けてカイトを置きます。
 2. 傷付いたパテンのベルクロ開閉口をはずします。これによってパテンのスリーブを開き、ブラダーを取り出すことが可能になります。(図1,2)
 3. スプリントバルブからカバースライドして外し、ケーブルタイを取り除きます(ケーブルタイを切るなどして)(図3)
 4. チューブからエア・クリップをスライドして外します。(図4)
 5. ストラッドからベースカラー・クリップを外し、保管しておきます。



リペア

- 6.バルブのひとつにフライングラインを結びます。バルブの根元にしっかりと結びましょう。(図6)
- 7.パテンのスリーブの開閉口部にゆっくりとバルブチューブを差し込みます。(図7)
- 8.チューブはベルクロで固定されています。それを剥がし、スリーブから慎重にブラダーを引き抜きます。その際フライングラインをスリーブに通したままにしておきます。
- 9.エア・クリップをインフレーション・チューブに戻します。ブラダーに空気を送り込み、バルブを差し込みます。ブラダーを膨らませ過ぎないように注意してください。
- 10.穴の開いた箇所を調べるためにブラダーを水に沈めます。バスタブなど、広い場所の方が楽に動作を行うことができます。
- 11.泡の発生によって穴の位置を見分けます。空気が漏れている箇所を見つけたら、その箇所を乾かし穴の周りに丸を書き込んで印をつけます。油性ペンで書くことをお勧めします。(図8)
- 12.柔らかいタオルでブラダー全体の水気を拭き取ります。
- 13.ブラダーから空気を抜きます。
- 14.ブラダーの平らな部分に穴が開いている場合、穴を塞ぐように裏紙をはがしたパッチをブラダーに置き、強く押し付けます。
- 15.完全に乾かすため、少なくとも20分はブラダーを放置します。
- 16.再びブラダーに空気を入れ、穴が完全にふさがったことを確認します。
- 17.ブラダーの穴を修理した後、ブラダーを元に戻しやすいうようにベビーパウダーなどでブラダーをコーティングすると作業が簡単です。(これは必須項目ではありません)
- 18.ブラダーから空気を抜きます。
- 19.パテンの端のフライングラインをバルブノズルと結びます。
- 20.パテンの端にブラダーを平らに置き、スリーブにブラダーを戻します。
- 21.バルブをゆっくりとスリーブに戻し、ブラダー全体がスリーブに入るようにします。
- 22.スリーブのバルブ開閉口部分からフライングラインを引き、その一方でブラダーを元の場所に戻るように移動させます。
- 23.ブラダーが元に戻ったら、スリーブのバルブ開閉口にバルブを戻し、縛ってあったフライングラインをほどきます(図9)。
- 24.ベースクリップを元の位置に戻します。
- 25.ブラダーがスリーブの四つ隅に行き渡っていることを確認します。
- 26.バルブにエア・ディストリビューションに戻します。十分に奥まで挿入できていることを確認します。ケーブルタイをチューブのくぼみにしっかりと取り付け、バルブの形に合わせてから余分な部分をカットします。
- 27.組み立てたパーツの上にバルブカバーを被せ、スプリントベースを固定します。(図10)

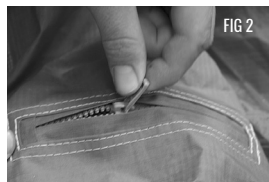


*さらに詳しい情報はホームページのtech Tipsの部分を参照してください。

リペア

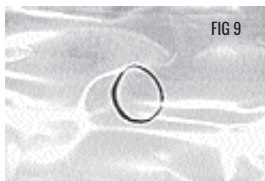
リーディングエッジ・ブラダ－のリペア

1. まずパテンを上に向けてカイトを置きます。
2. リーディングエッジ (LE) ・ブラダ－の両端は折り返しになったベルク口開閉口がついています。LEの中央にはジッパーで開閉できるポケットもついています。ベルク口開閉口をはずし、中央ポケットのジッパーを開いてください。これによってスリーブが開くようになりブラダ－に触ることが可能になります。(図1、2)
3. エアロックバルブをはずします。エアロックのベース部分をLE内側に慎重に押し込み、中央の開閉口部よりとりだします。外した部品は後のために大切にしておきます。(図3、4、5)
4. 次にスプリント・インフレーションチューブをLEより外します。まずはカバーをスライドさせ、ケーブルタイを切るなどして取り除きます。(図6)
5. エアクリップをチューブの両側から外します。(図7)
6. ベースカラー・クリップを外し、保管しておきます。(図8)
7. バルブのパーツも保管しておきます。
8. 次に2本のフライイングライン (なければ細い紐) を用意します。リーディングエッジの端からリーディングエッジブラダ－にアクセスし、1本目の紐を結びます。もう1本のフライイングラインをリーディングエッジのもう片側のブラダ－に結びます。
9. 慎重にバルブをスリーブに押し込みます。
10. ジッパー付きの中央ポケットからリーディングエッジのブラダ－に触ることができるようになります。
11. 慎重にブラダ－の片側を中央ポケットから引き出していきます。フライイングラインがスリーブ内に通った状態を保ちます。ラインがスリーブに通っていることにより、リペア後にブラダ－を戻しやすくなります。
12. スリーブからブラダ－が抜けたら、チューブにクリップを取り付けからブラダ－に空気を挿入し、その後クリップをしめて空気が漏れないようにします。ブラダ－を膨らませすぎないようにしてください。
13. 穴の開いた箇所を調べるためにブラダ－を水に沈めます。バスタブなど、広い場所の方が楽に動作を行うことができます。泡が出てくる部分に穴が開いています。
14. 空気が漏れている箇所を見つけたら、その箇所を乾かし穴の周りに丸を書き込んで印をつけます。油性ペンで書くことをお勧めします。



リペア

15. 柔らかいタオルでブラダー全体の水気を拭き取ります。
16. ブラダーから空気を抜きます。
17. ブラダーの平らな部分に穴が開いている場合、穴を塞ぐように裏紙をはがしたパッチをブラダーに置き、強く押し付けます。
18. 完全に乾かすため、少なくとも20分はブラダーを放置します。
19. 再びブラダーに空気を入れ、穴が完全にふさがったことを確認します。
20. ブラダーの穴を修理した後、ブラダーを元に戻しやすいようにベビーパウダーなどでブラダーをコーティングすると作業が簡単です。(これは必須項目ではありません)
21. ブラダーから空気を抜きます。
22. スリーブに通ったラインの端をバルブノズルに結びます。
23. 中央ポケットの近くにブラダーを置き、蛇腹に折ります。ブラダーをねじれることなくスリーブ内に戻すためです。
24. 片側からブラダーを中央ポケットに入れていきます。
25. リーディングエッジの片端に歩いていき、スリーブの端を持ちながらフライイングラインをゆっくりと引きます。片側のブラダーがゆっくりとスリーブ中の元の位置に戻ります。ブラダーについてのタグが見えるようになり、スリーブの端を通過するまで、充分にブラダーを移動させます(図10)。この作業をしっかりと行うことが、今後のトラブルを避けることにつながります。
26. ブラダーのもう片側にも同じ動作を行います。バルブが所定の位置に移動し、ブラダーがしっかりとスリーブ内に収まるまで同じ動作を続けます。
27. ブラダーをスリーブの端まできちんと押し込みます。
28. ブラダーが元の場所に収まったらスリーブのホールを通してバルブをスリーブの外に戻します。
29. スプリント・バルブを元の位置に取り付けます。
30. ポケットについてのジッパーにブラダーが引っかからないよう注意しながらジッパーを閉めます。ウイングチップの折り込みを元に戻し、ベルク口で固定します。
31. エアロックバルブを元の位置に取り付けます。
32. 少し空気を挿入してブラダーがスリーブの隅まで通っていることを確認します。
33. スプリントバルブを取り付けます。



専門用語集

ウイングサーフィンや風、テクニックに関して使われる用語

ウイング

空気を挿入して膨らませるチューブの
入ったデザインのデバイス。

エアロック

2つのパーツから成るバルブで、ウイン
グに空気を挿入したり、空気を抜くた
めに使います。

ブラダー

リーディングエッジとストラッドに内
蔵された空気を挿入するチューブ。

(自転車のタイヤのように内側に空気
を入れるチューブが入るシステムに
なっています)

リーディングエッジ (LE)

ウイングの前方にある空気を挿入でき
るチューブ。

スプリント

素早く高浮きを挿入するシステム。

ストラット

ウイングのハンドルがついている部
分。内臓ブラダーに空気を入れてシェ
イブを保つ作り。

ハーネス

ライダーとストラッドにあるループを
つなぐ便利な道具です。これによっ
てライダーは自分の体重を生かしなが
ら、あまり力を使わずライディングす
ることができます。もっとも一般的
なのはウエストハーネス

(胸部に着用するタイプ) とシート
ハーネス (腰部に着用し足の付け根に
巻くタイプ) です。

ポンプ

ウイングに空気を入れるツール。

ボディドラッグ

水上にいるライダーがボードを使わず
ウイングに引いてもらうテクニック。
ウイングの飛行とリランチング、自己
レスキューの方法を学びます。

ジャイピング

ライダーが乗っているボードの走っ
ている向きを変えること。スタポータ
ックからポータックに、またその反対
に移ること。

ウォータースタート

水中から風の力を利用してボードの上
に立ち上がるテクニック。

ブレーニング

ボードが水面を滑走する状態。

専門用語集

オーバーパワー

ライダーの能力や体重、体力、風のコンディションと比べ、ウイングのパワーが強すぎる状態。

アンダーパワー

ライダーの能力や体重、体力、風のコンディションと比べ、ウイングのパワーが弱すぎる状態。

アビーム

風に対して90度の方向。

アップウインド

風上

サイドショア

岸と並行に右からか左から吹く風。

オフショア

陸から水面に吹く風。

オンショア

水面から陸に向かって真正面から吹く風。

サイドオンショア クロスオンショア

オンショアとサイドショアの間から吹く風。

ダウンウインド

風下。風が吹いていく方向。

ガスティ

風がコンスタントに吹かず、強弱がある状態。

リウォード

ライダーの風下側。

ウインドウォード

ライダーの風上側。

リフティング

リフティングはウイングがライダーの頭の上にある時、ニュートラルポジションで起ります。安定しない風によって突然ライダーを持ち上げる垂直な力がかかります。

ラフ

風（ブロー）が抜けた箇所。ガスティなコンディションでブローが抜けた風の弱い状態のことを言います。またウイングが完全にデパワーした状態にあることも言います。

ブロー

風（ブロー）が抜けた箇所。ガスティなコンディション風が特に強く吹いている状態を指す言葉。

ニュートラルポジション

ライダーの頭上ほぼ真上にウイングがあるポジションです。このポジションにあるウイングは安定していますが、地上にいるライダーをリフティングする可能性の高いポジションです。海

上にいる時はボードを手繰り寄せている間に使いやすいポジションですが、陸上にいる時には極力このポジションを使用しないでください。ランチング後は素早く海上に出て、このポジションを避けることをお勧めします。陸上でのこのポジションは大変危険です。

ニュートラルゾーン

ニュートラルポジションを中心に左右に幅を広げたエリア。この位置にあるウイングはパワーゾーンにあるウイングに比べてパワーや引く力が劣ります。しかし陸上やガスティなコンディションの時は特に、このゾーンにウイングがある場合は注意が必要です。

専門用語集

パワーゾーン

ライダーの前から横に当たるニュートラフゾーン以外のエリア。ウイングに最もパワーが生まれるエリアなので、ピギナーの間はこのエリアにウイングを保つには注意が必要です。

バー 空気挿入量

- 1バー=14PSI
- 1 mbar=0.015PSI

PSI 1インチにかかるポンド

- 1 PSI=68.9mbar

ビューフォート風力級

風が起こす諸現象（波の様子、煙りの流れなど）によって階級をつけたシステム。このシステムによって風の強さを表す機会はあまりない。

(0=なぎ~12=台風)

ノット

スピードや風速の単位。海里に基づき計算されます。1ノット=1時間で1海里(1,852m)進む速さ。1ノット=1.15mph 1ノット=1.85km

MPH

スピードや風速の単位。マイルに基づいて計算される。

1mph=1時間で1マイル(1,609m)進む速さ。